

## 第2回可児市地域公共交通協議会 議事要点録

日時 平成25年1月18日(金)

午後1時30分～午後3時20分

場所：可児市役所5階第1委員会室

出席者：(委員) 50音順：敬称略

安藤美喜子 加納 正佳 木村 治史 小山 幸男 佐々木 透 桑下 和弘

佐橋 雅喜 澤田 幸博 品川 湜彦 栃川 敏 林 隆 林 則夫

林 美由樹 宮田 博文 門間 實 横田 賢二 若林 拓史

(代理)

山口 孝治(溝口明宏委員の代理)

(事務局)

総合政策課長 牛江 宏 総合政策係長 肥田 光久

総合政策係主任 渡邊 真史

欠席者： 鍋島 寿

### 1. あいさつ

会長が開会を宣した。

#### (議事録署名者の指名)

会長から議事録署名者として、澤田幸博委員と品川湜彦委員を指名した。

### 2. 広見東・中恵土地区「電話で予約バス」利用状況等報告

事務局が資料1に基づき、広見東・中恵土地区で試験運行を行っている「電話で予約バス」の利用状況及び、3月30日までの予定だった試験運行を9月末日まで延長する予定であることを報告した。

#### 委員

10月から市全体の見直しを考えているという話があったが、方向性について教えて欲しい。

#### 事務局

現時点ではまだ明確に示すことはできない。一般論としては、マイクロバスを使ったさつきバスについては、北部の人口の多い市街地を循環するような対応が主になるとされるし、電話で予約バスは市の中心や鉄道駅などへ向かう役割を担うということになると思う。具体的な方向性については、現行の体制を大きく見直す必要があるのか、多少の改良でいくのかななどを整理してから、次回以降の協議会で説明したい。

## 会長

試験運行を延長する旨の話があったが、その点について意見等はないか。

### 【意見等なし】

## 3. 名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）について

事務局が資料2に基づき、名鉄広見線の活性化へのこれまでの取り組み及び、平成25年度以降の広見線の存続について名鉄と協議を続けていくことを説明した。

### 委員

取り組みの1つの案として、運転免許証の返納者に対する補助を行うと良いのではないか。

### 事務局

免許返納者の定期購入に対する助成制度を設けており、現在実施中である。申請の実績については、今のところない状況であり、これはPRが上手にできておらず、反省すべき点である。

### 委員

八百津町は鉄道が廃線になった結果、町が寂れてしまったという実態がある。そういった面では、御嵩町にとって鉄道があるかないかは非常に大きな問題である。御嵩町と八百津町の間にトンネルがあり、現在工事が止まっている。このトンネルが開通できれば、御嵩町と八百津町のアクセスが良くなり、鉄道利用の増加にもつながると思う。

### 事務局

県道多治見白川線のことであると思うが、まだ3年くらいかかるだろうと聞いている。また、工事が止まっている理由としては、トンネルの掘削現場から天然由来の砒素が検出されたため、その調査を行っていることが、工事が止まっていることの1つの原因であると聞いている。

御嵩町も八百津町も名鉄広見線の活性化につながるであろうということで、トンネルの開通を非常に望んでいるため、可児市としても同じ立場の中で応援していきたい。

### 委員（可茂土木事務所 職員）

トンネル工事が止まっている理由については、事務局が説明した事情もありますし、もう1つとしては、現在トンネルを北側から掘っているため、南側から見ると止まっているという印象を与えるかもしれない。住民から早期要望として挙がっていることを認識しているし、県としても早期に進めていくつもりであることをご理解いただきたい。

### 委員

公共交通の利用者をもっと増やしていくことは、環境面などから大切であると考えている。そのためには乗って「便利」・「お徳」・「楽しい」と感じられる仕組みづくりを考えていく必要がある。外国では自転車を電車内に持ち込めるようなところもある。このようなことができれば、「自動車」から「電車+自転車」への転換の可能性が出てくる。

## 委員代理（名古屋鉄道株式会社 社員）

自転車を持ち込むことのできる電車につきましては、以前蒲郡線で試行した経緯がある。その時の結果としては、残念ながら利用がなかった。そのような経緯もあるため、こういったことは慎重に検討を行い、やれることはやっていきたい。また、御嵩駅の駅前でレンタサイクルがあり、そちらでフィーダー輸送のようなことを一部担っていただいていることもあり、何らかの連携について今後も模索していくつもりであるため、今後ご協力いただきたい。

## 4. 地域公共交通調査事業の進捗状況報告

事務局が資料3に基づき、国庫補助を利用した地域公共交通調査事業について、進捗状況を報告した。

### 委員

1点目の質問は、23頁のバス停の待合環境の不満が高いという結果について、具体的にどのような意見があるのか。2点目は、24頁の電話で予約バス運行前は外出をしなかった人が1.2%と少ない件についてであるが、自分の家の近くにバス停があってもその存在すら知らないといった人が多く存在する。これは周知不足によるもので、もっと周知をうまく行えば状況は違うのではないかと。3点目は、例えば要望があれば、1万か2万円程度バス停代としてお金を取って、病院前にバス停を設置するといったことも良いのではないかと。そして、この収入を運行経費に充てることで、税金負担を抑えることができるのではないかと。

### 事務局

1点目の質問については、資料3別冊の62頁をご覧ください。ここに具体的な意見が載っており、概ねベンチや屋根を設置して欲しいという要望である。

### 事務局

これがアンケート結果であるが、民間の路線バスなどの整備以下の状態でスタートした経緯もあり、要望が全て解決できるかと言うと、現段階では難しい面があるがまずはこういった話があったということで受け止めている状況である。

続いて2点目であるが、さつきバスや電話で予約バスの周知が不足しているのではないかとといったことについては、全くその通りだと感じている。さつきバスについてはもう10年以上運行しており、電話で予約バスについては、導入の際には地域に入って説明会等を行なってはいるが、なかなか公共交通を身近なものに感じてもらうところまでは至っておらず、こちらの想いが十分に伝わっていないと認識している。まだ具体的なことは言えないが、10月の再編の際には、市民の方が公共交通を意識していただき、自分も公共交通に関わるんだという想いを持ってもらえるようなことが必要であると考えている。

最後にバス停をもっと上手に使いえないかという提案だが、現在既に施設名が停留所名になっているものがいくつか存在している。現在であれば、そういった個別の病院名などを入れる場合、そこから宣伝費としてお金をいただくことも考えるが、導入当時はそのような発想もなく今に至っている。今からそ

のようなバス停を切り替えていくのも1つの方向性であるし、ご提案いただいたバス停の位置を変えてその時点から切り替えることも1つの案として受け止め、検討しなくてはいけない課題としていただきたい。

#### **委員**

緑ヶ丘線については、今まで色々策を講じてきたが、やってもやっても利用者は減るばかりという状況である。私が期待するのは、可児市が10月から再編を考えているとのことなので、私共の路線を上手く活用してもらい、また乗り継ぎなど迷惑をかけないようにやっていきたい。また、桜ヶ丘から可児高校へバスの運行を始めたが、それなりに利用してもらっている。そこから感じることは、路線というのはニーズに合えば利用者数は伸びるのかなということである。

最後にさつきバスは平成12年から運行していると思うが、同じ車両を使い続けているため、10月の再編の際は、そちらのことも頭に入れておいてもらえればと思う。

#### **事務局**

帷子線、桜ヶ丘ハイツ線以外の利用者数を聞くと、こちらも悲しい思いを抱いているが、可児高校への運行では、公共交通を必要としている人がいるということを再認識した。

さつきバスの老朽化については、現実として認識している。今後については今の段階で明言できるものではないが、サービスや安全運行に関わるようなことになれば大変な話であるので、長期間の課題として入れていきたい。

#### **委員**

しらすぎ公民館の電話で予約バスの表示が非常に目立たない。これでは利用者の増加につながらないと思う。

#### **事務局**

市が一番やらなくてはならない指摘だと考えている。昔のバス停のように大きな自立式の停留所を建てれば良いかもしれないが、お金や地元の協力などが必要になってくるため、すぐに解消できるとは言いがたいが検討させていただく。

#### **委員**

身近なバス停を知らないことは大問題であると考えます。

また、アンケート結果の「きっと増える」というのは、自分は乗らないけど他の人は乗るかもという意味も含まれるため、慎重に進めたらよい。

私はPRをもっと活発にしたら良いと考えている。例えば、さつきバスの時刻表は大きすぎて家で貼るところもない。北九州のバスでは適度なサイズの時刻表と一緒に磁石を配付し、各家庭の冷蔵庫に貼ってもらう工夫を行っている。また、市営地下鉄の進出により市営バスが撤退し、その代わりに民営バスに業務を委託した地域があるが、民営バス会社は、バス停ごとの時刻表を各家庭に配付するような広告を行うなどの努力を重ねた結果、地下鉄よりもバスの方がお客さんが増えたという事例もある。

## 事務局

可児市ではまだまだ一般的な広報にとどまっており、対象を絞るなどの戦略的な利用促進は行えていないため、今の話は今後の参考にさせていただく。

## 会長

ここで1つ絞って資料3の20頁に記載されていた、運賃格差の問題について何かご意見を伺い、10月からの再編に生かしたいが如何であるか。

## 事務局

資料4を参考に伺いたい。

## 委員

電話で予約バスの導入の際に、協議会で運賃について協議したが、最初は200円という意見が多かったが、タクシー事業者から200円ではやっていけないという話があり、300円となった経緯がある。

## 委員

美濃加茂市では、タクシー車両を使ったバスとマイクロバスを使ったバスが重複して運行している地域が存在しているが、そこは運賃の安いマイクロバスの利用が多く、安いというパワーは凄いものがあると感じている。しかし、デマンドバスは運行時間などのサービスの面で違いがあることも認識してもらいたい。

## 委員

名鉄広見線にはついては、是非存続をお願いしたい。また、少しは地域に還元があるような、例えば特急のミューを御嵩駅発着で1本か2本出してもらえると良い。

電話で予約バスについては、ニックネームを付けると良いと思う。

## 事務局

名鉄広見線については、長期スパンの中で名鉄と良い関係を築きながら存続に進んでいければ良い。

電話で予約バスについては、再編に合わせて何とかいいものができればと考えており、方法等については事務局で練らせていただく。

## 5. 閉会

会長から、本日の協議結果について非公開にする部分はないことの確認があり閉会した。